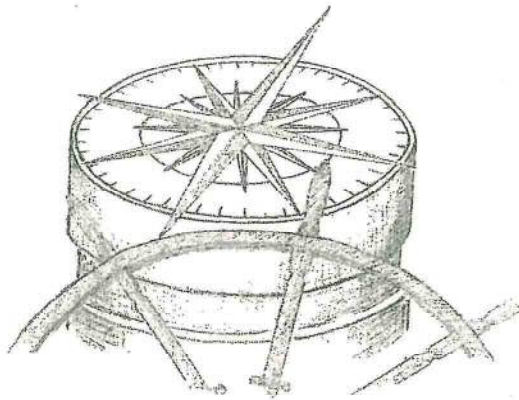


平成28年度
鹿児島学習定着度調査
始良・伊佐地区結果分析



始良・伊佐教育事務所

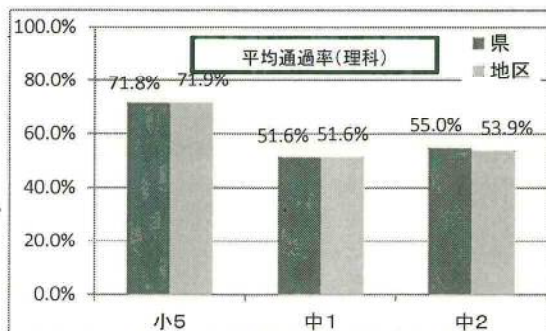
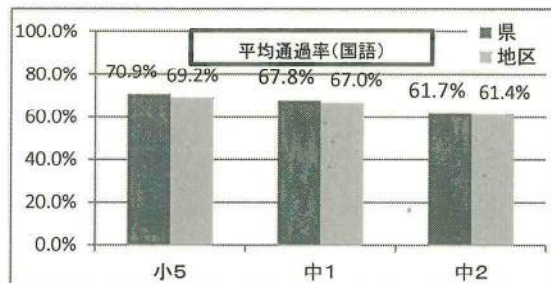
平成28年度鹿児島学習定着度調査 始良・伊佐地区の結果概要

1 各教科の平均通過率

		全体通過率			「基礎・基本」通過率			「思考・表現」通過率		
		県	地区	県との差	県	地区	県との差	県	地区	県との差
小5	国語	70.9	69.2	-1.7	75.8	74.5	-1.3	61.1	58.5	-2.6
	社会	61.4	59.1	-2.3	62.3	59.6	-2.7	59.4	58.0	-1.4
	算数	64.2	64.0	-0.2	70.6	70.6	0.0	48.8	48.1	-0.7
	理科	71.8	71.9	0.1	73.9	74.0	0.1	67.8	67.8	0.0
中1	国語	67.8	67.0	-0.8	73.6	72.6	-1.0	59.3	58.9	-0.4
	社会	57.5	57.1	-0.4	64.8	65.1	0.3	40.3	38.1	-2.2
	数学	64.0	62.9	-1.1	70.9	69.4	-1.5	47.7	47.8	0.1
	理科	51.6	51.6	0.0	54.5	54.9	0.4	46.4	45.7	-0.7
中2	英語	69.6	69.6	0.0	71.3	71.2	-0.1	67.6	67.7	0.1
	国語	61.7	61.4	-0.3	65.6	64.9	-0.7	53.0	53.6	0.6
	社会	51.9	51.4	-0.5	57.4	57.3	-0.1	38.9	37.4	-1.5
	数学	66.5	64.4	-2.1	73.1	70.7	-2.4	53.3	51.7	-1.6
	理科	55.0	53.9	-1.1	59.8	58.7	-1.1	43.1	42.1	-1.0
	英語	57.4	58.1	0.7	72.3	73.5	1.2	39.8	39.9	0.1

2 県平均通過率との比較から

- (1) 小学校においては、全体で見ると4教科中3教科で県平均を下回っている。
特に、国語、社会においては「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を下回る結果となっている。
- (2) 中学校1年生においては、全体で見ると、国語、社会、数学の3教科が県平均を下回っている。特に、社会では「基礎・基本」は県平均を上回っているものの、「思考・表現」は県平均を下回り、目標通過率の5割を大きく下回るなど、課題が大きい。
- (3) 中学校2年生においては、全体では英語以外の教科で県平均を下回っている。特に社会、数学では「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を下回っている。
- (4) 県全体の課題である「思考・表現」の定着に関しては、目標通過率の5割を超えている教科とそうでない教科の差が大きくなっている。今後も思考力・表現力の向上を図るための授業改善を行う必要がある。
- (5) 本地区の課題としては、県の平均まであとわずかとなっているものの、社会・理科の「思考・表現」における通過率が低いことが挙げられる。小・中連携を生かした系統的な指導が必要である。



各教科の平均通過率と受検者の正答数分布

【小5国】

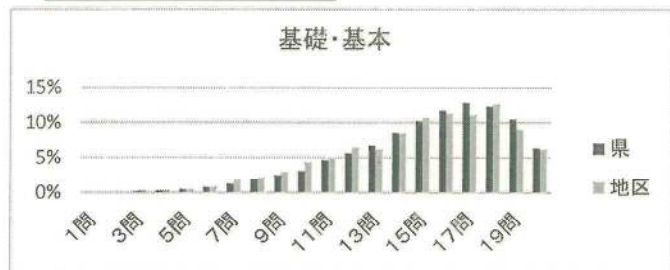
(1) 【国語】

小学校第5学年

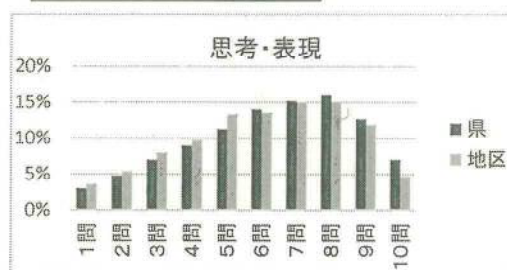
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	75.8	74.5	-1.3
思考・表現	61.1	58.5	-2.6
全体	70.9	69.2	-1.7

正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



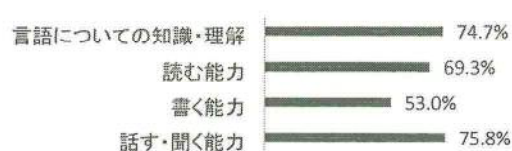
正答数(全体)の分布



内容・領域別通過率



観点別通過率



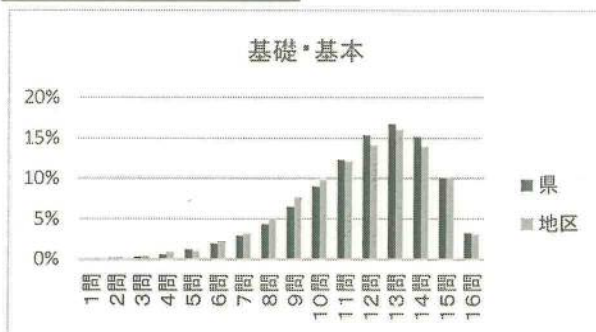
- 「基礎・基本」については、平均通過率 74.5%であり、県平均より 1.3 ポイント低くなっている。「ローマ字を正しく読んだり書いたりすること」や「相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができるか」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 58.5%であり、目標通過率の5割には達しているが、県平均との比べ 2.6 ポイントと大きく下回っている。「資料を提示しながら発表する際に気を付けることを理解しているか」「登場人物の心情、場面についての描写をとらえることができるか」「事実と意見を区別しながら書くことができるか」等に課題がある。
- 正答数の分布については、県と同じくらいのばらつきであるが、正答数の山はやや低くなっている。
「基礎・基本」、「思考・表現」とともに上位層の割合が、県と比べ低く、「思考・表現」においては、下位層の割合が県と比べ高い。引き続き、児童へのきめ細かな指導を行い、中位層の児童の学力を高める等、これまでと同様、個に応じた指導、個を生かす指導の充実に努める必要がある。
- 書く力を伸ばすために、「自分の考えを書く」「条件を満たすように書く」といった学習に取り組ませていく必要がある。

中学校第1学年

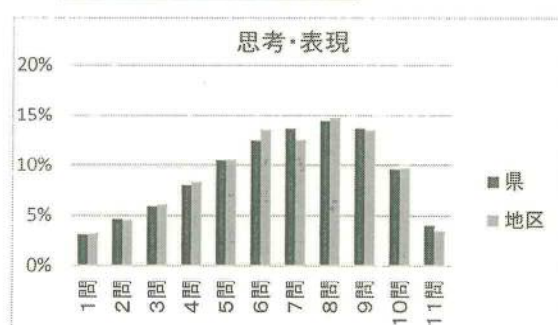
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.6	72.6	-1.0
思考・表現	59.3	58.9	-0.4
全体	67.8	67.0	-0.8

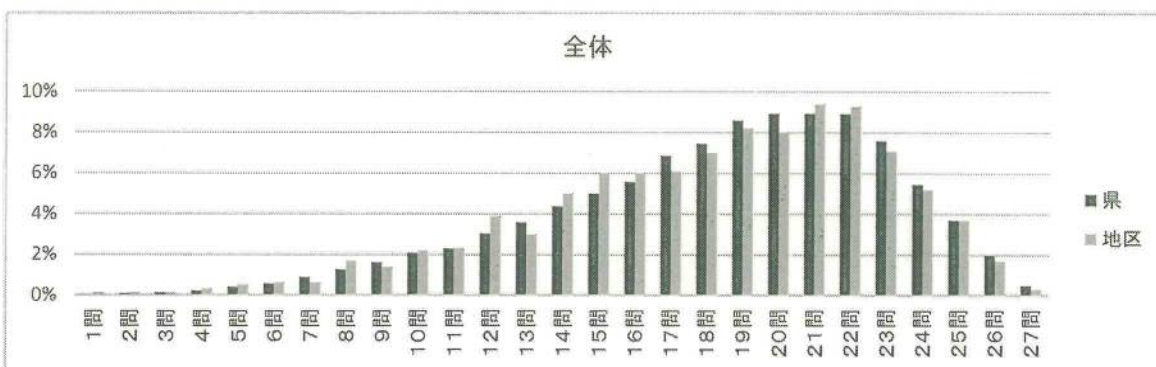
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別通過率



観点別通過率



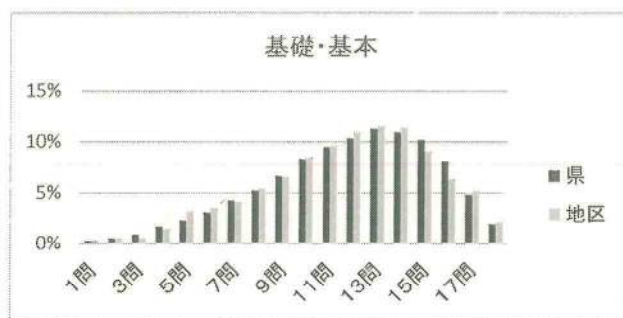
- 「基礎・基本」については、平均通過率は 72.6%であり、県平均より 1 ポイント低い。「文章の構成や展開の工夫をとらえる問題」や、「小学校の学習漢字を正しく書く問題」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、目標通過率の 5 割は越えているが、県平均を 0.4 ポイント下回る結果となった。課題としては、「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる問題」や、「書く目的や意図に応じて、情報を分類したり内容を整理したりする問題」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県と比べると下位層から中位層の割合が高い。この層の生徒の学力を引き上げることで、全体の学力向上を図っていく必要がある。
- 今後は、文章の構成や課題の工夫をとらえながら読んだり、目的や意図を明確にして書いたり、複数の情報から必要な情報を探して簡潔に書いたりするなどの学習に取り組ませ、基礎・基本、思考・表現の定着を図っていく必要がある。

中学校第2学年

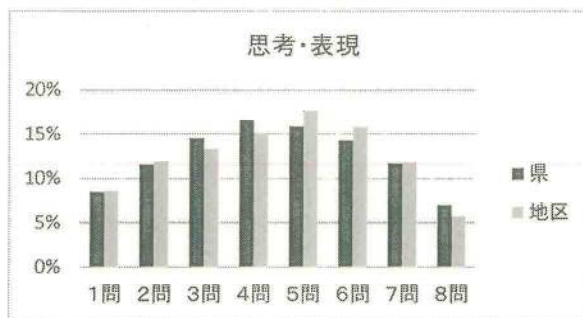
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.6	64.9	-0.7
思考・表現	53.0	53.6	0.6
全体	61.7	61.4	-0.3

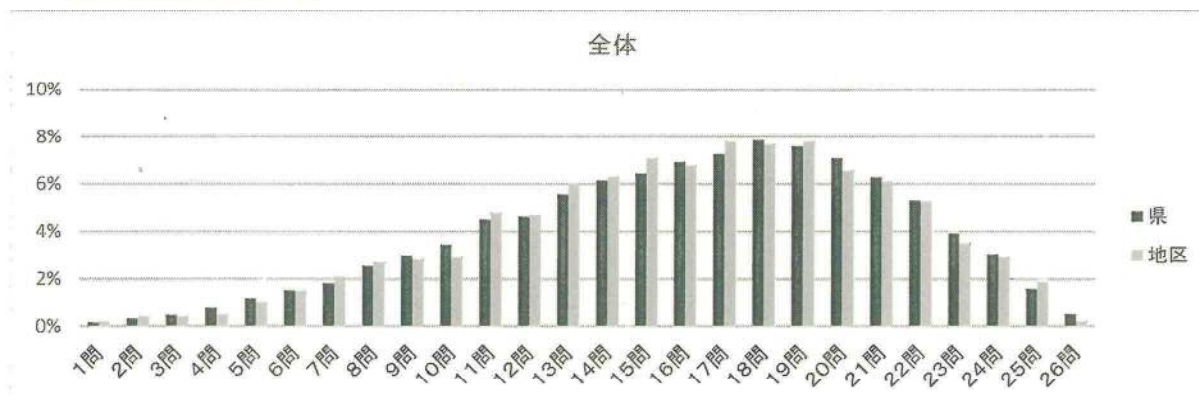
正答数(基礎・基本)の分布



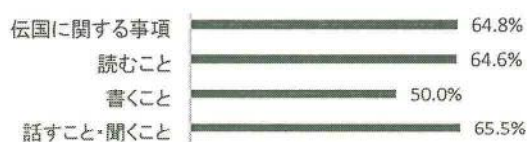
正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別通過率



観点別通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 64.9%であり、目標通過率の8割には達しておらず、県平均よりも-0.7ポイントと低くなっている。「行動描写から登場人物の心情をとらえることができるかを問う問題」や「筆者の考えを正しく捉えているかを問う問題」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 53.6%と目標通過率の5割を達成し、県平均を0.6ポイント上回った。概ね定着が図られているが、「資料を参考に、質問や反論を想定し、意見を整理しながら書く問題」や「論述されている事柄の理由を資料から探し、文章に書く問題」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向である。「基礎・基本」では、県よりも中位層の割合が高くなっているので、この層の生徒の学力を高めることで、全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後は、話の内容に関連がある資料から必要な情報を読み取ったり、取り出した情報をもとに自分の考えをまとめて文章を書いたりする活動を取り入れたい。また、説明や発表、討論といった言語活動を通して、意見や質問、助言等を交わす経験を多く積ませ、自分の考えを広げようとする態度をさらに養うことが大切である。

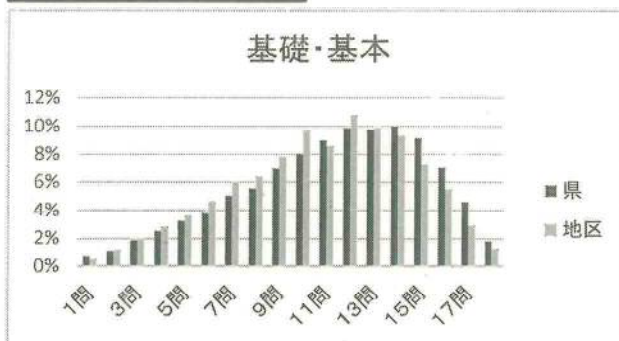
(2) 【社会】

小学校第5学年

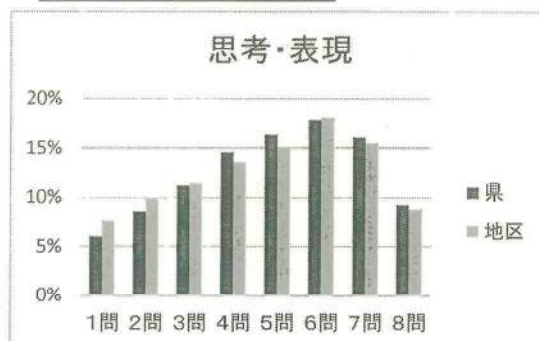
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	62.3	59.6	-2.7
思考・表現	59.4	58.0	-1.4
全体	61.4	59.1	-2.3

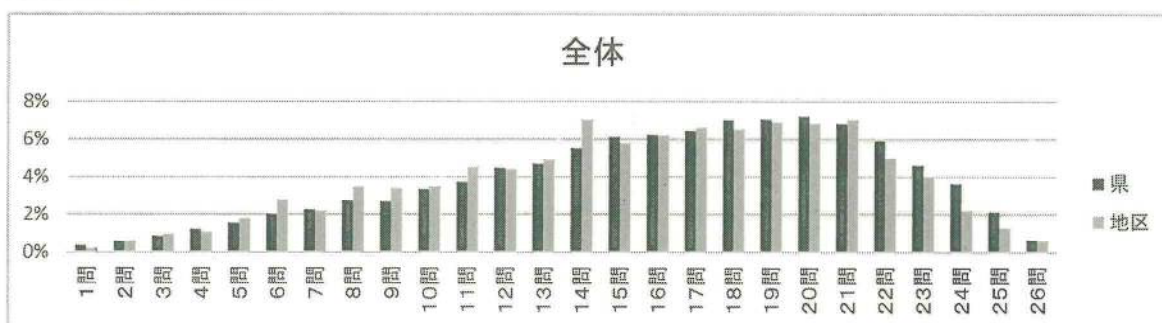
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別通過率



観点別平均通過率



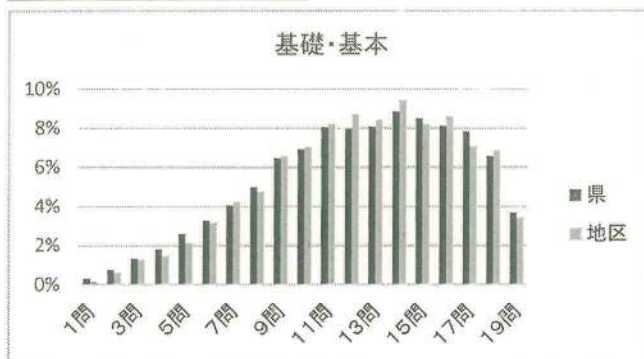
- 「基礎・基本」については、平均通過率 59.6%と低く、県平均からも-2.7ポイントと、定着が十分ではない。特に、「国土の様子を問う問題」や「工業地帯の名称や位置等を問う問題」における課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 58.0%であり、目標通過率の5割を達成しているが、県平均には達していない。「資料をもとに説明する問題」において、課題が見られる。
- 正答数の分布については、県と比べると上位層の割合が低い。「基礎・基本」は中位層が高く、「思考・表現」においては、下位層の割合が高くなっている。全体的に県よりも下位層から中位層が多いため、これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導の充実が必要である。
- 今後は、基礎的・基本的な語句や社会的現象の意味をしっかりと理解させ、根拠となる資料を示しながら説明させる場の設定や、話し合い、レポートや社会科新聞の作成等、児童相互による多様な思考の交流の場の設定により、多面的に考察させるような授業展開の工夫が必要である。

中学校第1学年

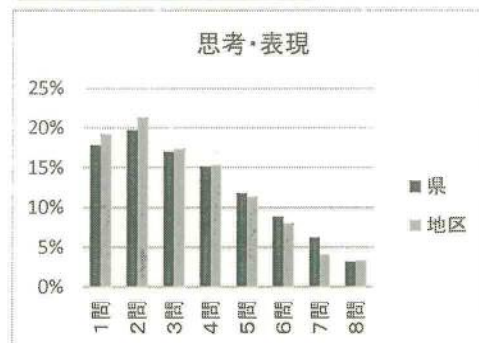
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	64.8	65.1	0.3
思考・表現	40.3	38.1	-2.2
全体	57.5	57.1	-0.4

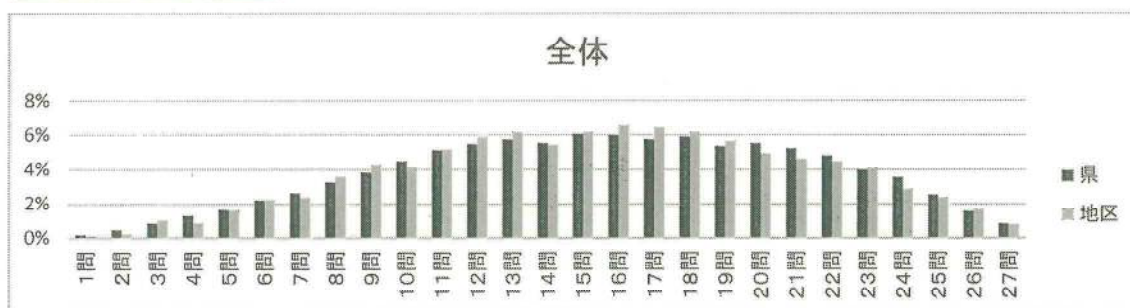
正答数(基礎・基本)の分布



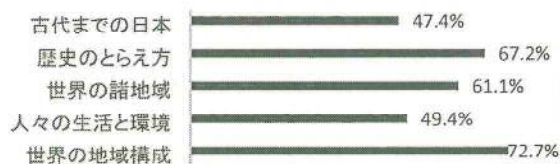
正答数(思考・表現)の分布



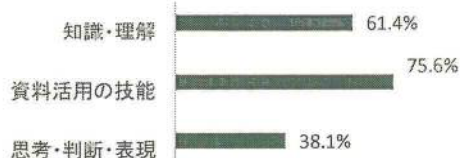
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



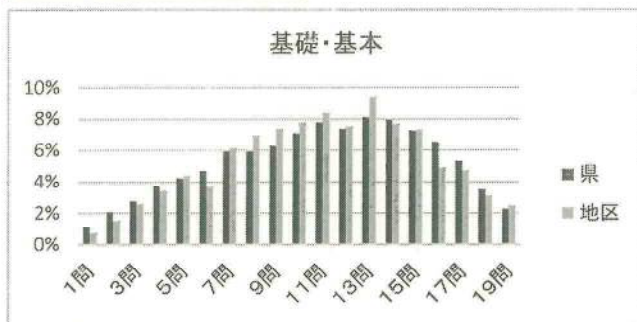
- 「基礎・基本」については、平均通過率 65.1%であり、県平均よりはよかったものの、目標の 8 割には達していない。「気候帯の特色とその分布の理解を問う問題」に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 38.1%と目標の 5 割には達していない。また、県平均と比べ-2.2 ポイントと低く、課題が大きい。特に、「EU 諸国内の工業の特色についての説明を問う問題」や「中国の文明のおこりと発展について、順序立てて指摘することができるかを問う問題」等に課題がある。
- 正答数の分布について、「基礎・基本」では下位層の割合が低く、中位層から上位層が若干高くなっているが、「思考・表現」における下位層の割合が高いことから、全体としては県と比べて中位層が高くなり、上位層が低くなっている。
- 今後は、地図や表、グラフといった資料の基本的な見方を確実に理解させるとともに、資料から分かることを、自分の言葉でまとめたり、発表させたりすることで、表現力を高めるような学習に取り組ませることが必要である。

中学校第2学年

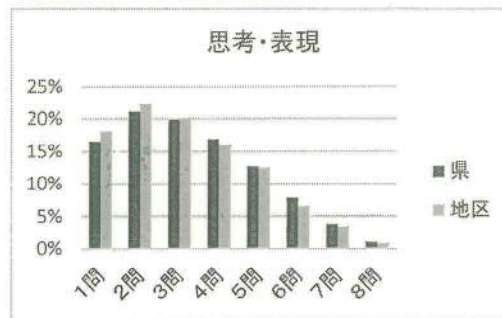
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	57.4	57.3	-0.1
思考・表現	38.9	37.4	-1.5
全体	51.9	51.4	-0.5

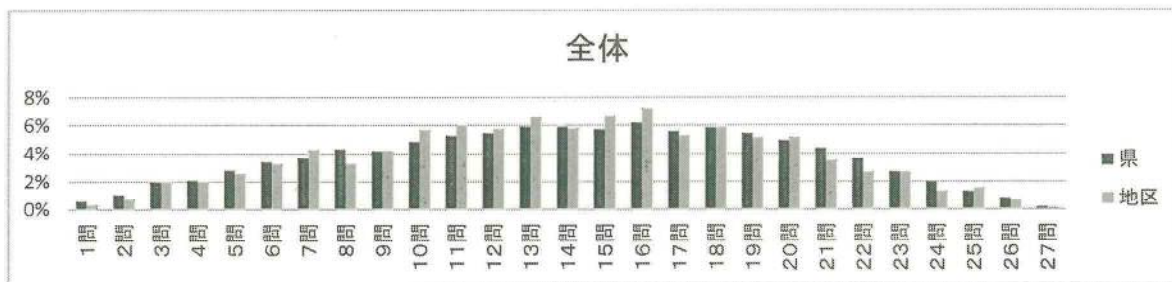
正答数(基礎・基本)の分布



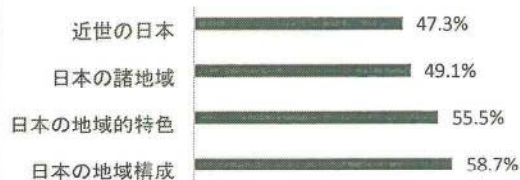
正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 57.3%であり、県平均にはあと 0.1 ポイントと迫っているが、目標通過率の8割には達していない。「都道府県庁所在地の位置と名称の理解を問う問題」や「鎖国以前の江戸幕府の外交関係についての理解を問う問題」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 37.4%であり、県平均と比べ 1.5 ポイント低く、目標通過率の5割を大きく下回っている。「日本の発電所の分布について、発電所の立地条件から説明する問題」や「検地とその影響について、資料と関連付けながら説明する問題」に課題が見られた。
- 正答数の分布については、県と比べ「全体」「基礎・基本」とも中位層の割合が高い。また、「思考・表現」では、県よりも下位層の割合が高くなっている。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後は、資料を読み取って解釈し、関連付けていく活動の設定が必要である。図やグラフ等の資料から気付いたことをもとに、自分の言葉でその要点をまとめ、生徒相互に考えや意見を交流するなど、習得した知識・技能を積極的に活用する場の工夫により、更なる学力向上を図っていく。

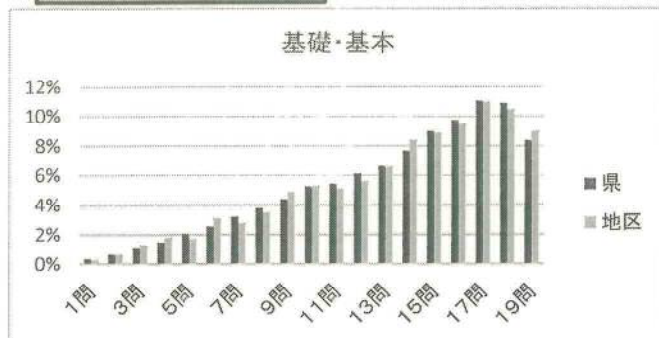
(3) 【算数】

小学校第5学年

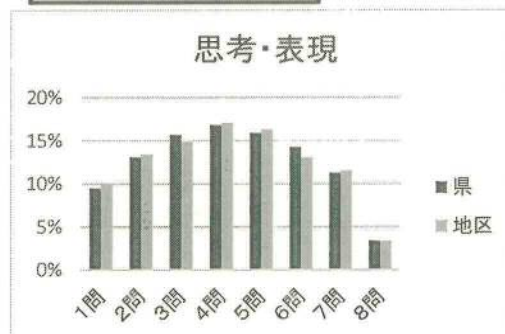
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	70.6	70.6	0.0
思考・表現	48.8	48.1	-0.7
全体	64.2	64.0	-0.2

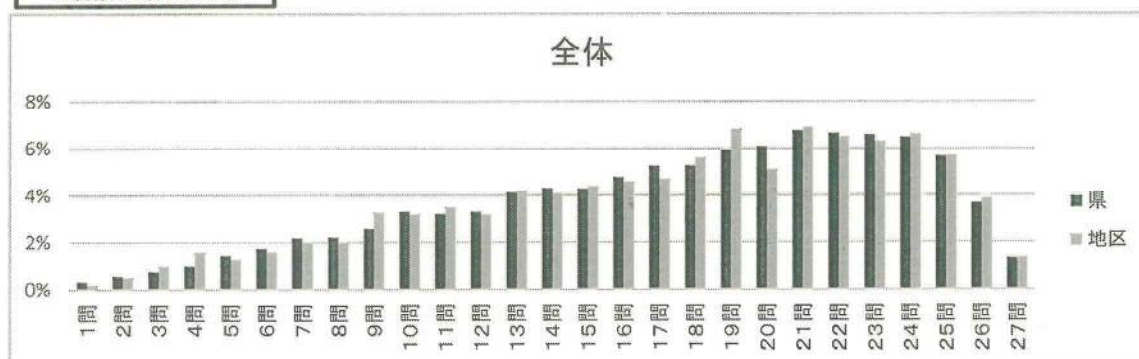
正答数(基礎・基本)の分布



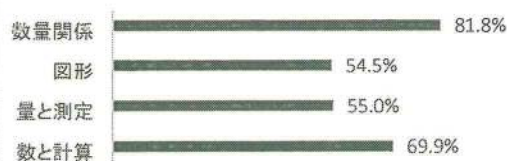
正答数(思考・表現)の分布



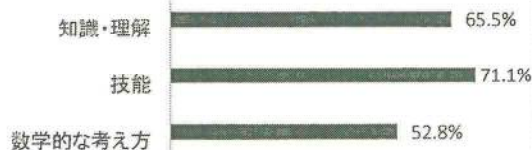
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



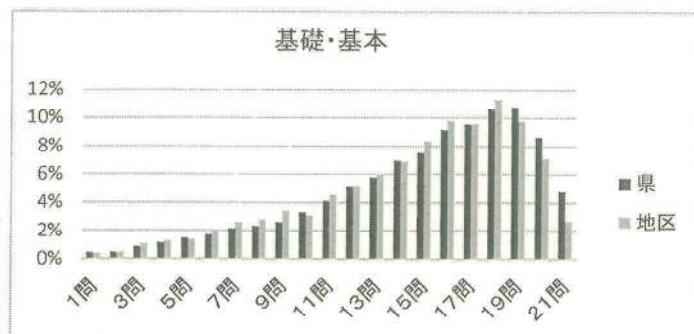
- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.6%であり、県平均と同じである。課題としては、「最大公約数や最小公倍数の意味を正しく理解し、求めることができるかを問う問題」が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 48.1%であり、目標の5割には達しておらず、県平均よりも 0.7 ポイント低い。課題としては、「単位量あたりの大きさの考え方をを用いて説明する問題」や「三角形の底辺や高さに着目して与えられた面積の関係をとらえ説明する問題」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも上位層・下位層の割合が若干高く、中位層の割合が低い。下位層・中位層の児童の学力を引き上げることで、全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後の取組としては、引き続き、自分の思考の過程を言葉、数、式、図、表などを活用して説明させるなど、数学的な考え方を高めるための授業改善が必要である。

中学校第1学年

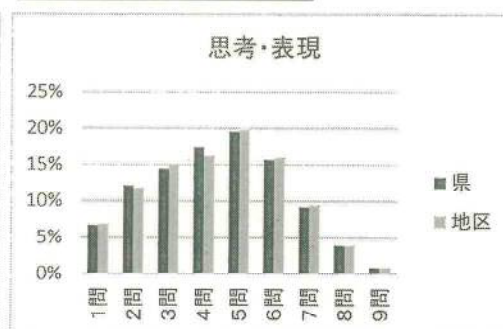
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	70.9	69.4	-1.5
思考・表現	47.7	47.8	0.1
全体	64.0	62.9	-1.1

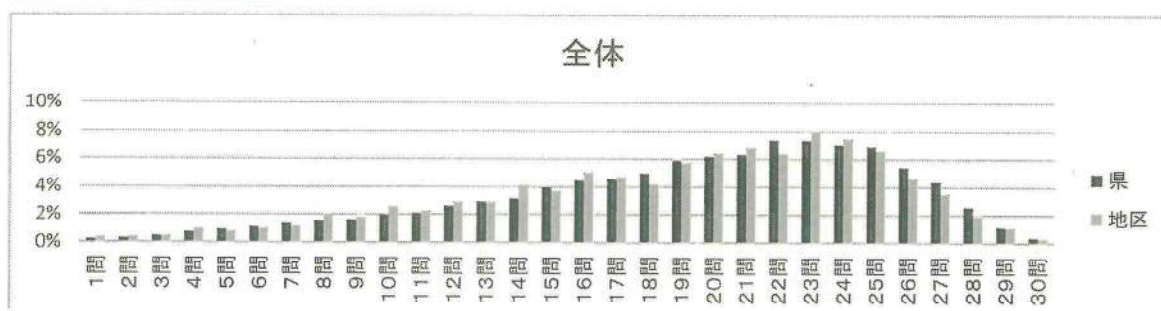
正答数(基礎・基本)の分布



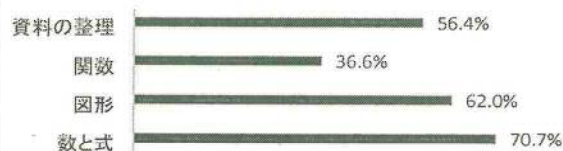
正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



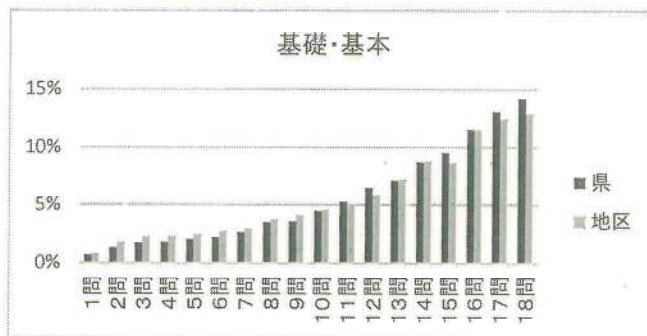
- 「基礎・基本」については、平均通過率 69.4%であり、県平均を 1.5 ポイント下回った。特に、「自然数の意味を理解しているかを問う問題」や「立体の展開図を組み立てたときの面と垂直な辺の位置関係を理解しているかを問う問題」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 47.8%で、目標通過率の 5 割には達していないが、県平均を 0.1 ポイント上回った。「回転移動させたときの頂点の動きを作図し、その長さを問う問題」や「問題から数量関係をとらえ、課題を解決することができるかを問う問題」に課題がある。
- 正答数の分布については、県よりも上位層の割合が低く、下位層の割合が若干高くなっている。個に応じた指導に努めると共に、基礎・基本を確実に身に付けさせ、中位層の学力を上げることで、全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後は、思考力・表現力を育むために、言葉や数・式・図・表・グラフ等を用いて、根拠を示しながら自分の考えを表現させたり、生徒同士で考えを交流させる中で新たな考えに気付かせたりするなど、生徒が主体となって取り組めるような学習活動の工夫による授業改善が必要である。

中学校第2学年

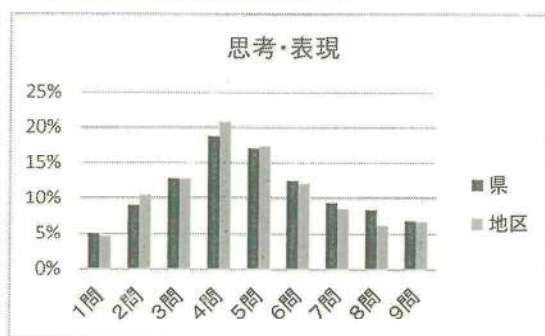
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.1	70.7	-2.4
思考・表現	53.3	51.7	-1.6
全体	66.5	64.4	-2.1

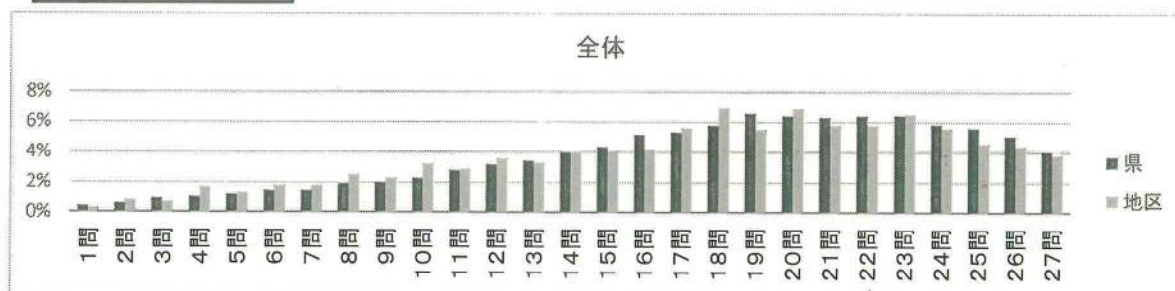
正答数(基礎・基本)の分布



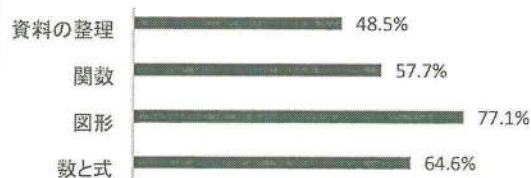
正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.7%であり、目標通過率の8割に達しておらず、県平均と比べても-2.4 ポイントと差が大きい。課題としては、「等式の性質を用いて目的にあうように変形できるかを問う問題」や「反比例の関係を式で表すことを問う問題」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 51.7%であり、目標通過率の5割には達しているが、県平均を1.6 ポイント下回った。課題としては、「ヒストグラムをもとに、割合(相対度数)を利用して資料の傾向を読み取ることができるかを問う問題」や、「2つの円周の長さを求め、文字を使って表すことができるかを問う問題」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、全体的に県よりも上位層の割合が低く、下位層の割合が高い。「基礎・基本」は、県よりも下位層の割合が高くなっており、確実な定着を図る必要がある。また、「思考・表現」においては、県よりも中位層の割合が高くなっているため、中位層の学力を引き上げることで、全体の学力向上を図っていく必要がある。
- 今後は、基本的な計算の習熟を図るとともに、数学的な見方や考え方を身につけさせるために、思考の過程を言葉や図・式・表・グラフ等を用いて説明させるなど、学習活動の工夫による授業改善が必要である。

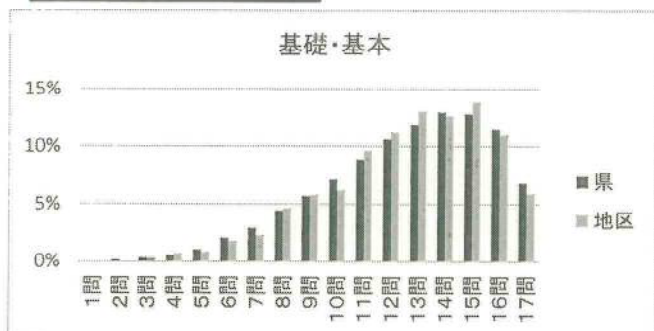
(4) 【理科】

小学校第5学年

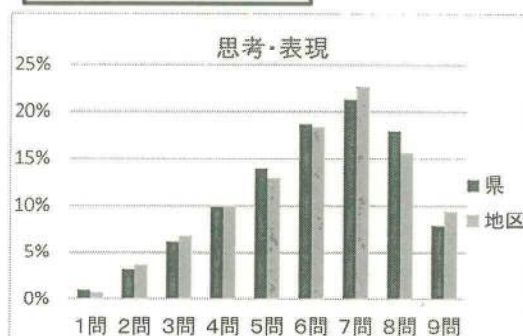
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	73.9	74.0	0.1
思考・表現	67.8	67.8	0.0
全体	71.8	71.9	0.1

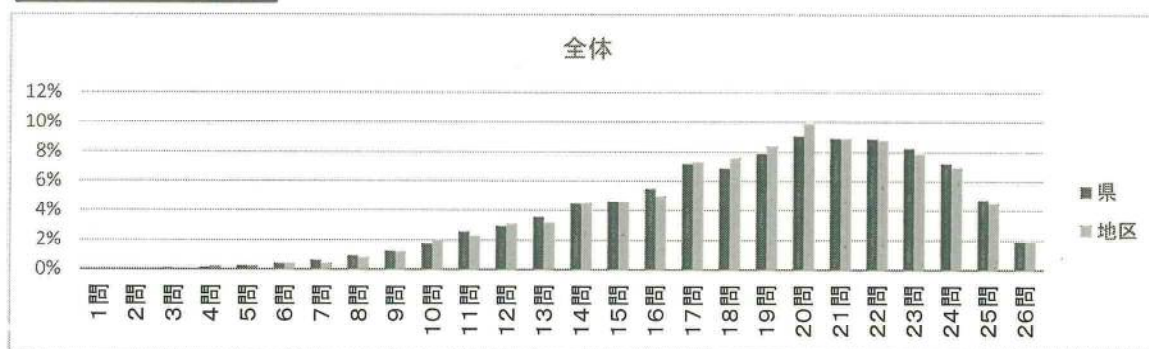
正答数(基礎・基本)の分布



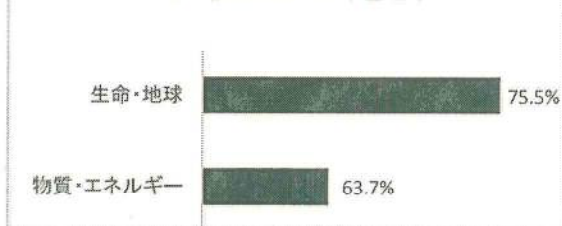
正答数(思考・表現)の分布



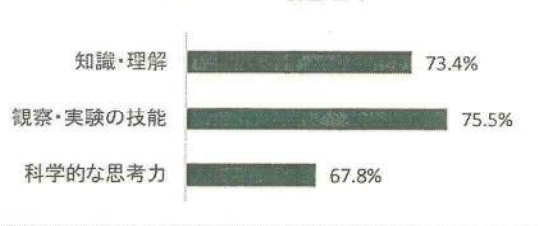
正答数(全体)の分布



内容・領域別の平均通過率



観点別平均通過率



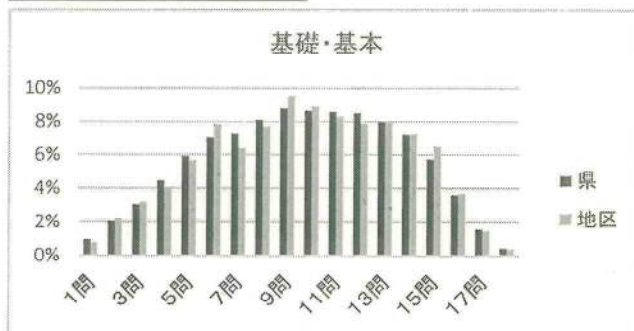
- 「基礎・基本」については、平均通過率 74.0%であり、県平均を 0.1 ポイント上回っている。「連続して気温を計ることができる記録温度計を理解しているかを問う問題」に課題がある。
- 「思考・表現」については、県平均と同じ平均通過率 67.8%で、目標通過率の 5 割を越えている。「発芽する理由を考えることができるかを問う問題」や「電流の強さを電気のはたらきに関係付けて説明することができるかを問う問題」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、全体的に県よりも中位層がやや高く、上位層が低い。中位層の学力を引き上げることで、さらに全体の学力向上を図ることが必要である。
- 今後も、児童に「なぜだろう」といった知的好奇心を抱かせ、予想をもたせた上で、観察や実験を行わせることが大切である。また、結果から分かったことを考察し、自然の事物・現象について「なるほど、そうか。わかった。」等の実感を伴った理解を図ることで、自分の言葉でまとめ、発表させるなど、児童の科学的な見方・考え方を高めるための授業改善が必要である。

中学校第1学年

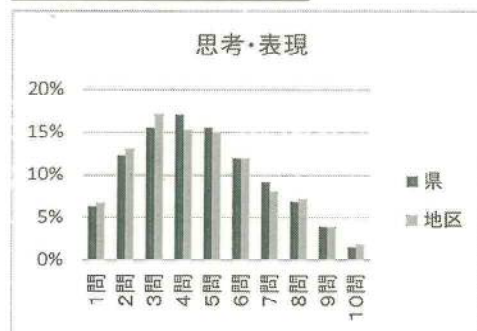
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	54.5	54.9	0.4
思考・表現	46.4	45.7	-0.7
全体	51.6	51.6	0.0

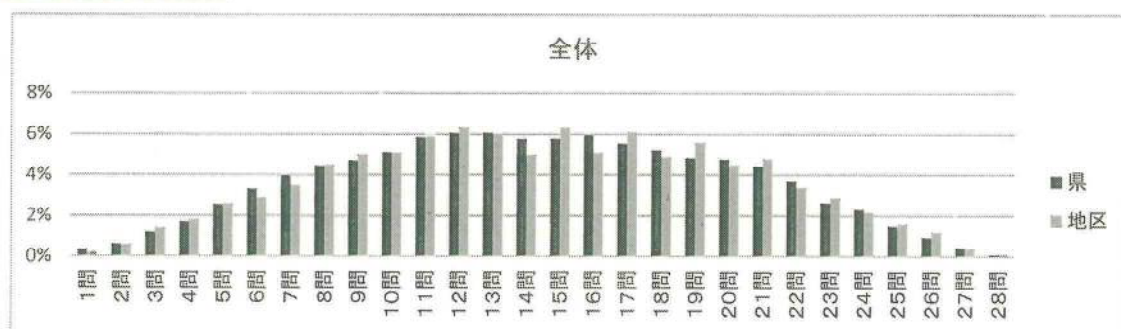
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



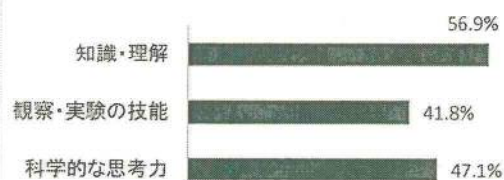
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



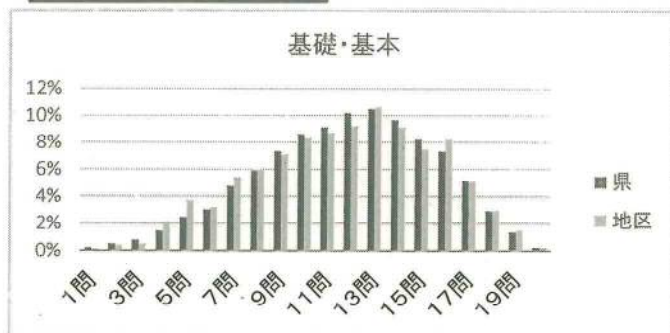
- 「基礎・基本」については、平均通過率 54.9%であり、県平均を 0.4 ポイント上回っているものの目標の 8 割には達していない。特に、「光合成で作られる気体とその性質を問う問題」や「メスシリンダーを読み取り、物質の体積を求める問題」「顕微鏡の基本的な使い方の理解を問う問題」等について課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 45.7%であり、県平均より -0.7 ポイント低く、また目標通過率の 5 割には達成していない。特に、「解度曲線を読み取り、水溶液から出てくる結晶の量を求めることができるかを問う問題」や「光が凸レンズに入るときと出るときの境界面で、それぞれ屈折していることを理解し、作図できるかを問う問題」「凸レンズを通った光の進む道筋と、像のでき方を理解しているかを問う問題」等に課題がある。
- 正答数の分布については、県よりも上位層の割合がやや高く、下位層の割合はやや低くなっており、中位層にはばらつきがある。特に「思考・表現」においては、上位層は県よりやや高いものの、中位層は低く、下位層の割合が高いことから、定着が課題となっていることが分かる。
- 今後は、導入時において、日常生活における具体的な場面や自然の事物・現象をもとに、学習への課題意識を高めさせ、目的意識をもって、観察、実験等を行うような機会を設けることが大切である。また、見通しをもって、探求、考察し、自然の事物・現象について、科学的な根拠を基に説明する機会を積極的に設定することで、科学的な見方・考え方を養う等の授業改善が必要である。

中学校第2学年

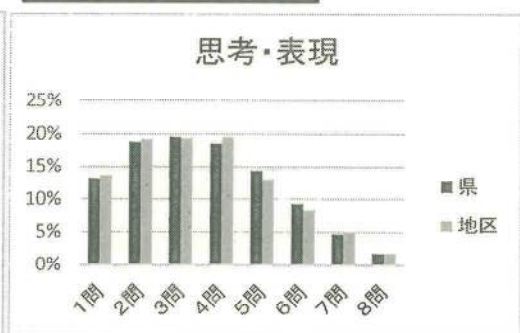
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	59.8	58.7	-1.1
思考・表現	43.1	42.1	-1.0
全体	55.0	53.9	-1.1

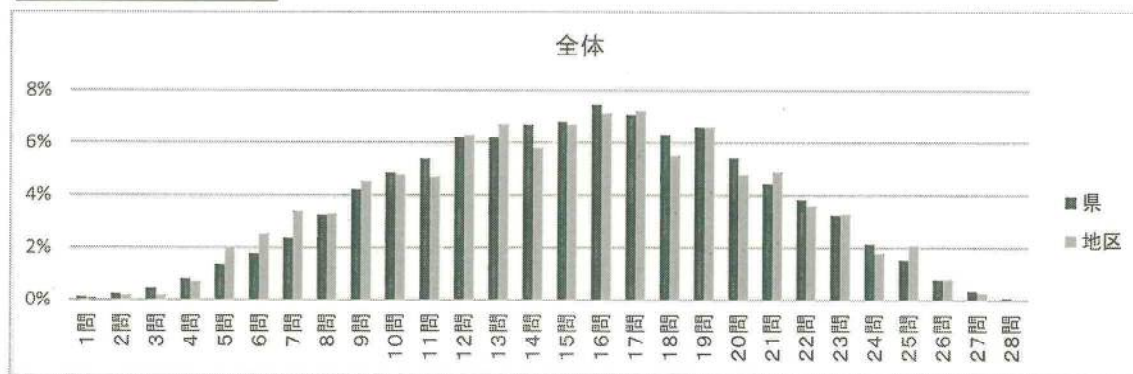
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 58.7%であり、目標通過率の 8 割には達しておらず、県平均より 1.1 ポイント低い。課題としては、「酸化銅を化学式で表すことができるかを問う問題」や「グラフのかき方を理解しているかを問う問題」、「等圧線から気圧の大きさを読み取ることができるかを問う問題」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 42.1%であり、目標通過率の 5 割には達していない。また、県平均を 1.0 ポイント下回った。特に、「湿度の考え方を理解しており、モデルで表現できるかを問う問題」や「高気圧と低気圧の位置関係から、風向を類推できるか」「物体がおよぼす圧力を求めることができるか」等に関する問題において課題が見られた。
- 正答数の分布については、下位層の割合が高く、県と比較すると学力の層のばらつきが若干小さくなっている。特に「基礎・基本」において、その傾向が強くなっている。これまで以上に、個に応じた指導の充実が望まれる。
- 今後は導入時において、単元への興味関心や課題意識を高めさせるために、自然の事物・現象をもとに、既習事項や生活体験との関連を図りながら、学習を展開することが大切である。また、結果を予想させ、目的意識をもって、観察、実験等を行い、得られた結果を分析し、科学的な根拠を基に説明する場を設定することで、科学的な見方・考え方を養う等の授業改善が必要である。

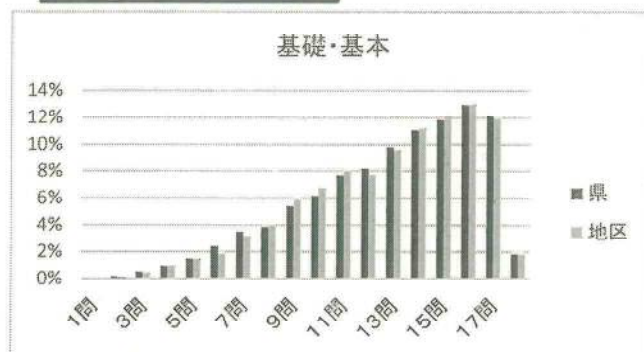
(5) 【英語】

中学校第1学年

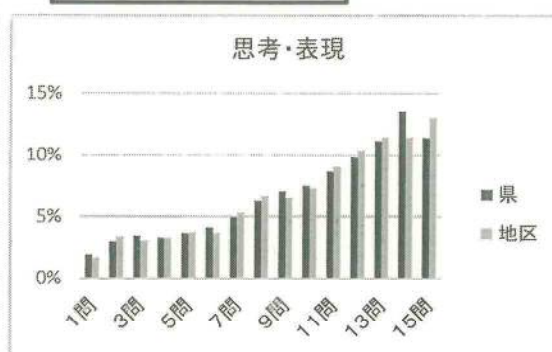
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	71.3	71.2	-0.1
思考・表現	67.6	67.7	0.1
全体	69.6	69.6	0.0

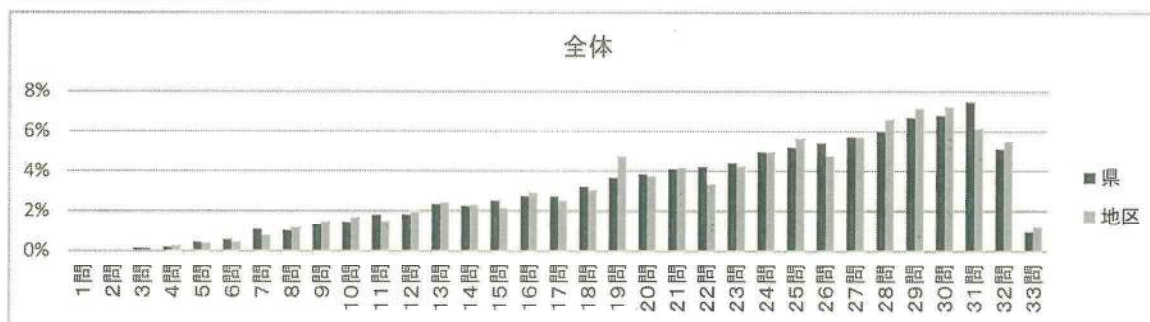
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



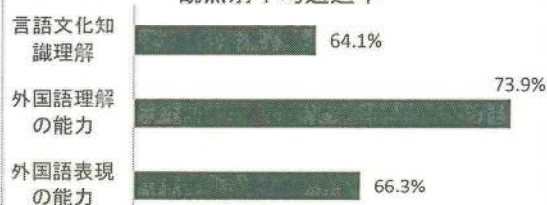
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



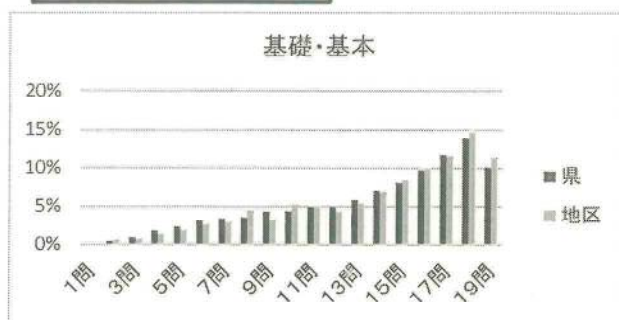
- 「基礎・基本」については、平均通過率 71.2%で、県平均まであと 0.1 ポイントであるが、目標の 8 割には達していない。「疑問詞 where を使った場所を問う質問に対して、適切に答えることができるかを問う問題」や「SVC の正しい語順を答えることができるかを問う問題」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 67.7%と目標通過率 5 割を上回り、県平均を 0.1 ポイント上回った。概ね定着が図られているが、「まとまりのある英文を読んで、その内容に対する英語の質問に適切に答えることができるかを問う問題」や「対話文中で、相手の意向を理解し適切な英文を書くことができるかを問う問題」等には課題が見られた。
- 正答数の分布については、全体としては、県よりも上位層の割合がやや高く、下位層が低くなっている。中位層の割合にばらつきがあるので、この層の力をつけていくことで全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後は、基本的な語や表現について、様々な状況や場面設定の中で繰り返し使用させ、言語の形態や意味だけでなく機能についての理解も深めながら、「聞く」「読む」活動を通して理解したことに基づいて、「話す」「書く」活動を通して表現させ、4 技能を有機的に統合させるなど、総合的な表現力を高める授業の展開により、更なる学力の向上が期待できる。

中学校第2学年

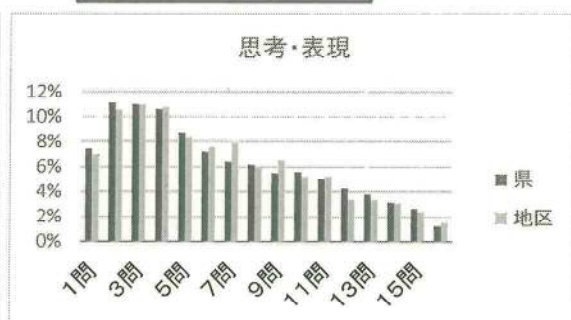
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	72.3	73.5	1.2
思考・表現	39.8	39.9	0.1
全体	57.4	58.1	0.7

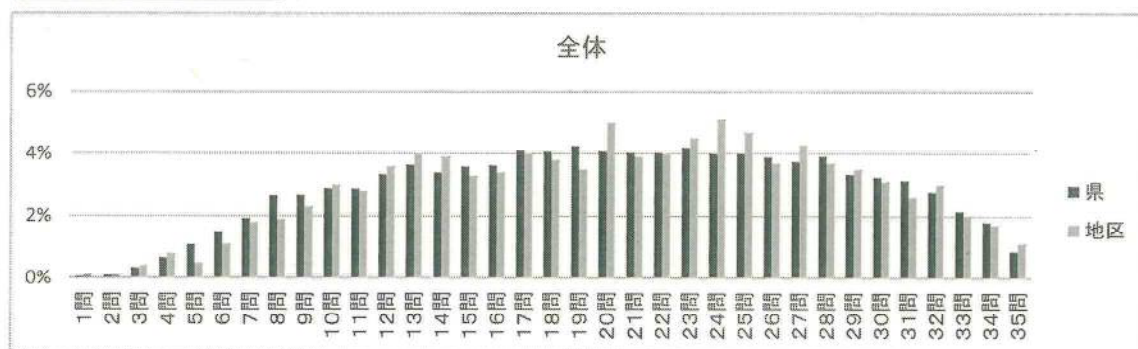
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



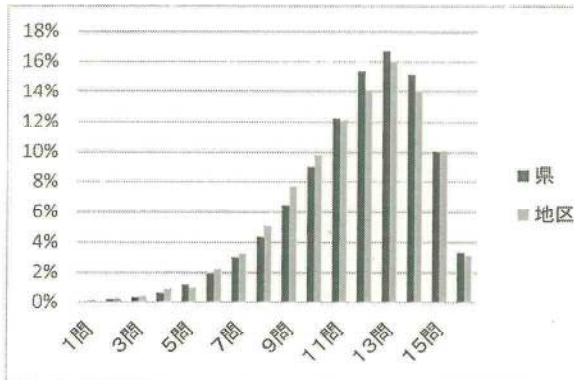
- 「基礎・基本」については、平均通過率 73.5%と目標通過率の8割に達していないが、県平均を 1.2 ポイント上回っている。課題としては、「まとまりのある英文を正しく読み取り、話の流れを把握することができるか」が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 39.9%で、県平均を 0.1 ポイントとわずかに上回ったものの、目標通過率5割に達していない。「会話の概要を理解し、時間を正確に把握することができるか」や「文章の構造に気付き、前後の文を参考に下線部の理由を日本語で説明することができるか」「条件を満たし意思伝達できるか、また、英文を書く上での決まりを意識し、正確に英文を書くことができるか」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、「基礎・基本」では県よりも上位層の割合が高く、「思考・表現」では中位層が高くなっている。全体では学力の層のばらつきも大きい傾向がある。これまで以上に、個に応じた指導、個を生かす指導が求められる。
- 今後は、ある程度まとまりのある分量の英文を読んでその概要を正しくとらえ、つながりのある複数の英文を書いたり、読んだ内容に適切に対応する表現をさせたり、自分の考えや意見を書く活動に取り組ませたりする等、4技能の関連付けを意識した授業の展開が必要である。

3 受検者の正答数分布からの考察～学力の実態と授業改善の方向性～

基礎・基本

タイプA

小5国, 中1国, 中2国, 中1数, 小5理で特徴的に見られる分布のタイプ



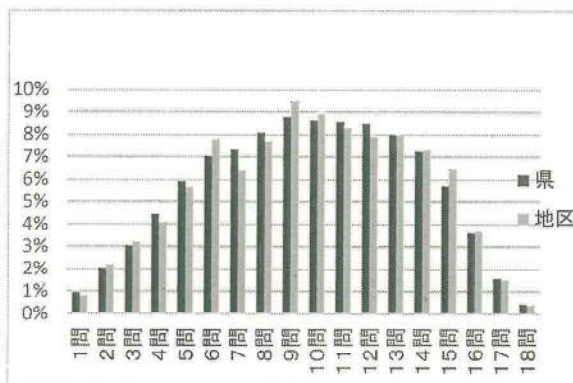
正答数分布の山が中央より右寄りであることから、下位層の割合が低く、中位層から上位層の割合が高くなっている。



「基礎・基本」の定着は、図られていると思われる。「思考・表現」を高める授業へ思い切ってシフトチェンジすることが望まれる。

タイプB

小5社, 中1社, 中2社, 中1理, 中2理で特徴的に見られる分布のタイプ



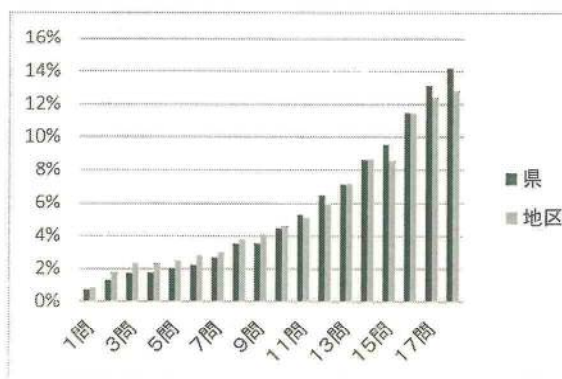
正答数分布の山が中央寄りであることから、中位層が学習集団の大多数を占めているが、下位層の児童生徒も少なくはない。



「基礎・基本」の定着は概ね図られていると思われる。基礎的・基本的事項丁寧にかつ確実に押さえつつ、「思考・表現」を高める授業へ段階的にシフトチェンジすることが望まれる。

タイプC

小5算, 中2数, 中1英, 中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



正答数分布の山は右寄りであるが、左端にも分布が見られることから、上位層の割合が高い反面、下位層の児童生徒も見られる。

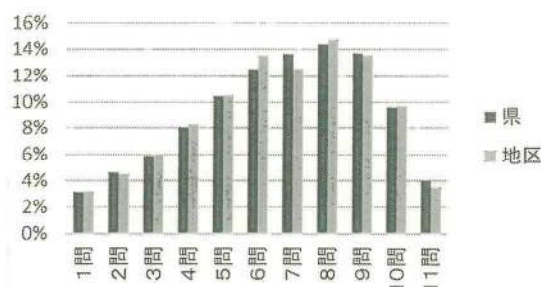


「基礎・基本」の定着が十分に図られている児童生徒が多い。しかし、基礎学力が身に付いていない児童生徒もあり、学力差が見られる。
下位層へのきめ細かい指導を行うと同時に、「思考・表現」を高める授業を展開する等、個に応じた指導の工夫を図ることが望まれる。

思考・表現

タイプA

小5国, 中1国, 小5社, 小5理で特徴的に見られる分布のタイプ



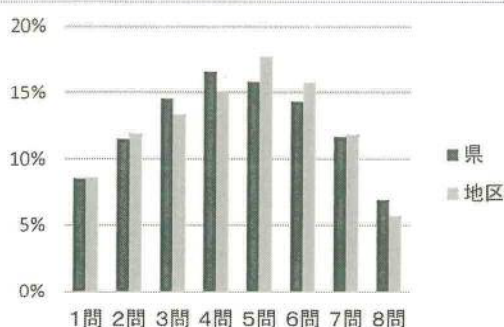
正答数分布の山が中央よりやや右寄りであることから、中位層から上位層の割合が高くなっているが、下位層も少なくはない。



下位層への細やかな指導を行うとともに、段階的に「思考・表現」の力を高める授業へ移行することが望まれる。

タイプB

中2国, 小5算, 中1数, 中2数で特徴的に見られる分布のタイプ



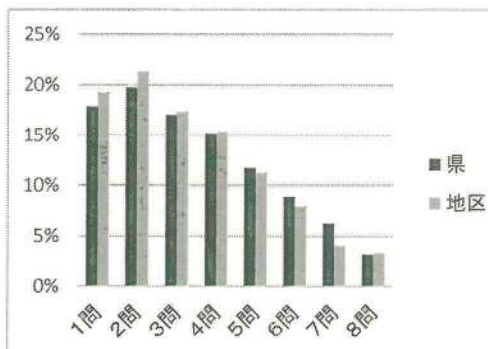
正答数分布の山は中央寄りであることから、中位層の割合が高いことが分かる。また、左側にも分布があることから、下位層の割合も低くない。



「思考・表現」を高める授業を展開し、学習集団の多くを占めている中位層の引き上げを図ることで、全体の学力向上を目指すとともに、個に応じた指導の充実に努めることが望まれる。

タイプC

中1社, 中2社, 中1理, 中2理, 中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



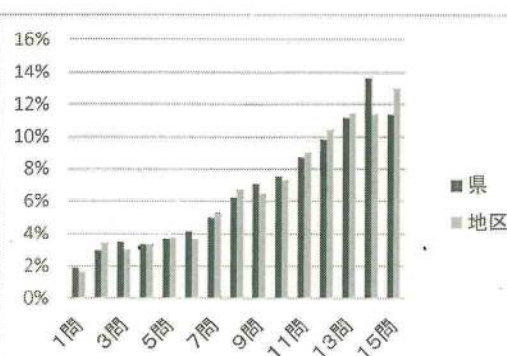
正答数分布の山が大きく左に寄っていることから、下位層の割合が高く、上位層、中位層の割合が低い。



「思考・表現」の力を高める学習が十分に行われていない、または、行われていても成果が上がっていないことがうかがえる。授業の中で、思考する場・表現する場を設定し、授業の進め方について学年部や教科部等で確認し、実践に取り組むことが望まれる。

タイプD

中1英で特徴的に見られる分布のタイプ



正答数分布の山が大きく右に寄っていることから、上位層の割合が高くなっている。しかし、左端にも分布が見られることから、下位層への手立てが必要であることが分かる。



「思考・表現」の定着が概ね図られつつあることがうかがえるが、下位層にも分布が見られることから、引き続き「思考・表現」を高める授業を展開するとともに、個に応じた指導の充実に努めることが望まれる。